

【オフィシャルパートナー企業インタビューシリーズ】

日本ゴールボール協会をさまざまな形で応援してくださっているオフィシャルパートナー企業の皆さんに、各社のお取り組みや思い、当協会への期待などを伺うインタビューシリーズです。

<第5回:FPパートナー様> [取材日:2020年11月25日]

株式会社FPパートナーは2009年設立のあんしんFP株式会社を前身とした保険代理店です。2020年11月現在、計27社(生命保険会社19社・損害保険会社8社)の保険商品を取り扱っています。無料FP相談サイト「マネードクター」の運営をはじめ、お客さまの安心で充実した一生の実現を願い、ご意向に沿った適切な保険商品や金融サービスを提供する「本来の保険業」を目指しています。

▼公式サイト:

FPパートナー <https://fpp.jp/>

マネードクター <https://fp-moneydoctor.com/>

2019年7月、当協会とオフィシャルパートナー契約を締結いただき、同年11月には日本ゴールボール選手権大会初の冠スポンサーとして、『マネードクター 2019 日本ゴールボール選手権大会』開催に尽力いただきました。今回は同社でCSR活動の推進を担当する岩水忠実さん(経営企画部部長)、猪股好美さん(経営企画部広報課課長代理)にお話を伺いました。(以下、敬称略)

▼ゴールボール支援の取り組み:

<https://fpp.jp/csr/>

<末永くお付き合いしながら、一緒に大きくなっていきたい>

——2019年7月より、オフィシャルパートナーとして日本ゴールボール協会を応援いただいておりますが、どのようなきっかけだったのでしょうか？

猪股

きっかけは、障がいのあるご友人の苦労を見聞きしていた当社社員が「何かできないか」と問題意識をもち、その思いを聞いた社長の黒木(勉)が、「会社として障がい者の支援に取り組もう」と考えたことです。2019年4月頃のことです。すぐに具体的な方法を探り始めましたが、驚くようなスピードで話が進み、7月には契約締結となりました。

実は社長自身にも以前、視覚障がいのあるお客さまの「高度障害保険金」受け取りのお手伝いをさせていただいた経験がありました。途中で障がいを負い、「自分の人生は終わった」と気落ちされた姿を目の当たりにしたそうです。そこで、障がいがありながらイキイキと活動している選手たちの力となり、そのような姿を多くの方に知っていただく活動が社会的意義を持つという考えにつながりました。

——数ある障がい者スポーツの中から、なぜゴールボールを選んでいただいたのでしょうか？

猪股

障がい者スポーツの情報収集から始める中で、日本財団パラリンピックサポートセンターを訪問し、現状や課題、各競技について教わりました。そして、「支援を必要としている競技団体」を教えていただいた中に、視覚障がい者の競技、ゴールボールも含まれていました。

すぐに協会をご紹介いただき、お話を伺って、「認知向上を課題としている競技」「パートナー企業がまだ少ない」といっ

た点も支援を決めるキーワードになりました。

——マイナー競技であることに、興味を持っていただいた？

猪股

競技の内容を伺って、「魅力的なものにもったいない」と思いました。当社も設立から 10 年が経ちましたが、まだまだ成長していきたいと思っています。ですから、「一緒に大きくなっていけるのでは」と感じたことが大きな決め手でした。

微力ながら、私たちのご支援で、ゴールボールが世間にさらに広く知られ、多くの人から応援していただけるのではないかと。そんな関係性が築ける、相性の良い競技団体だと思えたのです。

岩水

当社としては支援させていただくなら長くお付き合いできる競技団体がよいと考えていました。支援先を探し始めたのは東京パラリンピックの約 1 年前でしたが、協会の皆さんから「東京大会は一つの通過点。その先まで一緒に競技普及に取り組んでいただけないか」と熱弁されたことが響きましたね。

また、障がいのある選手本人だけでなく、ご家族の苦労について伺えたことも大きかったです。保険代理店として将来的にはご家族も含めた横の支援もできたらと思ひ至り、長く共に歩んでいけそうだったのです。知らないことばかりだったからこそ、お話がずっと入ってきて、そんな思いを猪股が中心となって社長にプレゼンしたところ、すぐに決まりました。協会の熱い思いと、応援したいという当社の思いが合致しました。

——協会の熱い思い？

猪股

「これから頑張っていかなければ」という強い覚悟を感じました。当社も昔ながらの地道な営業姿勢が特徴なので、その辺りも共感できました。また、ゴールボールの普及は地域差が大きいとも聞き、全国展開の企業という当社の強みも生かせると思いました。北海道から沖縄まで 100 拠点あるネットワークを活用し、競技を全国に広げるお手伝いをしていきたいです。

——ありがとうございます。契約後、すぐに体験会にご参加くださいました。

猪股

はい。まずは、支援を始めたことを社員に広めることが第一だと考え、そのためには私自身が競技を理解できるよう、体験してみたいと思いました。「ボールに鈴が入っている」という知識はあっても、実際の重さや硬さは触らないと分かりませんから。そこで、同行者を社内で募ったところ、5 名の申込がありました。その翌月には噂を聞きつけ、23 名の参加者が集まり、非常に心強く感じました。取り組みを開始して半年のうちに 30 名以上の社員が参加してくれました。

参加者から「とにかく、楽しかった」という感想が聞かれましたし、私は下手くそでしたが、それでも体験したことで自信を持って競技について語れるようになり、社員への説明もしやすくなりました。

また、名刺に協会ロゴも入っていますが、お渡しした方の興味を引き、ゴールボール体験談などで会話が広がることもあります。新たなビジネスへの発展も期待できそうな手ごたえを感じています。





公式カラーのブルーをはじめ、全6色ある名刺。「個性を生かしたい」という社員のアイデアが採用された。

協会ロゴも名称の有無を選択できる

——1994年から続く日本選手権大会史上初の冠スポンサーにも就任され、昨年度と今年度の2年間、「マネードクター 日本ゴールボール選手権大会」としてご支援くださっています。

岩水

体験会に参加して社内的にもゴールボール熱が高まっていたところに募集が始まり、大会開催におけるさまざまな課題を協会から聞いて、応援できればと思いました。2年間の冠スポンサーができるのも魅力でした。延期になりましたが、契約当時ではパラリンピック前後の2大会を支援する予定でしたので、パラリンピック後もパートナーとして支援し続けるのだという当社の姿勢を宣言できるなとも思いました。

ただし、現在のオフィシャルパートナー5社の中で当社は最も後発ですから、他社様のご意向も伺いながらの応募でした。思い切って手を挙げられたのは、「冠スポンサーは1社ですが、さまざまな役割があり、各社で協力して大会を盛り上げてほしい」と協会からお話しいただいたことです。気持ちが楽になりましたし、先輩他社に教えていただける体制は本当にありがたかったです。

猪股

昨年の大会閉会式で、「来年もマネードクターが冠スポンサーです」とご紹介いただいたとき、選手の皆さんが大きな声で、「ありがとうございます」と言ってくださり、「思い切ってやらせていただいてよかった」と嬉しく思ったことを覚えています。

——パートナー企業によるチームワークで、大会が運営される形ですね。すでに今年度も11月の予選会からスタートし、来年1月末の本戦(東京・新宿区)に向かっていきます。手ごたえなどはありますか？

猪股

そうですね。大会ポスターは社内で積極的に使っています。例えば、マネードクターの直営店舗から「掲出したい」、ある支社からは「顧客向けセミナーで会社PRに利用したい」といった問い合わせも増えています。自社の社会貢献の取り組みを誇りに思い、活用してくれているのだと思います。

また、社会貢献に熱心な企業は対外的に安心材料にもなるのでしょうか。最近はホームページを見た取引先からも、「ゴールボールに興味あります」とお声がけいただくことも増えています。ありがたいですね。

——チャレンジゴールボール大会にも、積極的にご参加いただいていますね。

岩水

今年1月から2月にかけて全3会場(関東、中国、北陸)での大会に、20代から50代の男女、総勢59名16チームが参加しました。おそろいのマネードクターTシャツで「チーム一体感」もアピールできました。

猪股

パートナー企業初年度としては「山場」といえる活動となりました。2000人の社員全体にゴールボール支援をどう広めるかは大きな課題ですが、チャレンジゴールボール大会は各地で開かれているので、幅広い社員が参加できます。営業社員にとって土日は活動日ですが、積極的に日程調整をして参加してくれた社員もいました。

——体験会とは異なり、他チームと競い合う大会です。いかがでしたか？

岩水

アイシェードをすれば、「誰でも一緒にできる」ことは大きな気づきでした。実際、私が参加した北陸大会では地元の企業や盲学校の生徒さんたちも出場していました。これまでパラスポーツは私たち（健常者）には参加できないという思い込みがありましたが、障がいの有無はもちろん、性別や年齢も関係なく誰でも参加でき、しかも楽しいことを実感しました。地元の皆さんと触れ合えたことも大きな収穫でした。

猪股

試合に全力で取り組む社員の普段とは異なる一面が見られましたし、結束力が強められたことで日常勤務に生かせそうだなと感じました。参加者からは、「想像以上に面白いスポーツ」「日頃のチームワークが試合で役立った」「視覚障がい者の不安や怖さが身をもって体験できた」など、とても好評でした。「公式ゴールボール部を作りたい」という要望もあるほど、ファンが増えています。今後も機会があれば、ぜひ参加したいです。

——心強いです。協賛を開始してから、社員の皆さんに変化などは見られますか？

猪股

私は本社勤務なので、ふだんは営業拠点の社員との接点は少ないのですが、体験会や大会で一緒になったとき、準備や後片付けを積極的に行ってくれて、とても助けられましたし、社員の力強さを改めて感じました。ゴールボール支援がなければ経験できなかったことだと思います。

また、ゴールボール体験が日常業務へのチームワークにつながった、家族との会話にゴールボールが登場する機会が増えたと感じる社員も多くいるようです。

——ゴールボールが皆さんの心をつかめた理由は何でしょうか？

岩水

まずは、楽しいスポーツであること。最初は「目隠して怖いな、大変だな」というイメージでしたが、実際にやってみたら、「静寂の中の格闘技」が実感できました。何より、仲間と助け合いながら楽しめる、というのが最大の理由ではないかと思っています。

猪股

当社には「助け合いの文化」が根づいています。ゴールボールを通じて、社員の助け合いの姿勢を感じることもできましたし、やはり当社とゴールボールの相性がよかったのだと感じています。

——今後、新たに考えているサポート活動などがあれば、教えてください。

岩水

パートナー契約にあたって当社が重視したのは「長いお付き合い」ですから、選手の応援だけでなく、協会とももっと連携し、課題に寄り添いたいです。例えば、大会やイベントへのボランティア参加、企画や運営への積極的な意見出しなどでも貢献できればと思います。

また、まだアイデア段階ですが、当社の得意分野を生かした支援も考えています。先ほどもお話ししましたが、選手のご家族も含めた人生設計、「ライフプランニング」を作成し、将来への不安を取り除くようなサポートです。セミナーや個別相談会、勉強会の実施なども企画できればと思っています。

「万が一」という言葉があり、それが保険だと言われますが、私たちが考えるライフプランは 10000 分の 9999 を重視し、楽しさや明るさを追求することです。今後、具体化していけるように努力したいと思います。

猪股

障がいの有無に関わらず、誰にでも一人ひとりの人生があります。それぞれの環境で人生を楽しく歩んでいただくために、私たちも何かお手伝いができるのではないかと考えています。せっかくご縁をいただいたのですから、当社がパートナーになった意味があるように、当社ならではの活動を実現していきたいですね。

——ありがとうございます。では、最後にゴールボール選手たちにメッセージをお願いします。

猪股

支援を始めてから1年。選手の皆さんのひたむきな姿にいつも勇気づけられ、私自身が大ファンになっています。コロナ禍の影響はあると思いますが、私たちもパートナーとして精一杯サポートしますので、選手の皆さんにはこれからも思う存分、競技をしていただきたいですし、前向きな姿で周囲にも笑顔をお届けしてください。お互いに励まし合い、高め合えるような関係性になっていきたいなと思っています。

岩水

協会の皆さんとの距離感の近さに驚いています。だからこそ、「一緒に」という手ごたえがありますし、共に歩み、共感し、もっともっとゴールボールを広めていきたいです。

11月にはコロナ禍で難しい状況のなか、関係者皆が協力し合い、今年度の「マネードクター日本選手権」の男女予選会が開催されました。選手たちは、「今回、参加したくてもできなかった仲間の分も」と素晴らしい戦いを見せてくださいました。そんな大会を支援できたことを光栄に思います。本戦は来年1月の予定です。安全な開催のために今後も関係者で協議しながら、どんな形であれ、「ゴールボールはしっかりと活動を続けている」ことを知っていただく機会になればと思っています。

また、来夏のパラリンピックでは、とにかく楽しんでいただきたいですね。最高峰の舞台に立つ勇姿はご家族をはじめ、多くの人たちに喜んでもらえることでしょう。私たちは大会以降も、さらに協会や他のパートナー企業の皆さんと連携を強め、ゴールボールが次のステップに進めるよう応援していきます。

——ありがとうございます。末永くのお付き合い、よろしくお願いいたします。



左から、岩水忠実さん、猪股好美さん、田中克幸さん（専務取締役兼経営企画部長）